

アカデミックフェス 事後レポート

企画名： 九尾の狐カフェ 2019

企画名（英語）： Nine-Tailed Fox Café 2019

時間： 12：00～18：00

会場： アカデミーコモン 2F D ルーム

登壇者： コーディネーター：加藤 徹（法学部教授）

開催概要：

「学術喫茶」というコンセプトのもと、お客さんが気軽に出入りし、明治大学の教員や学生スタッフ(教養デザイン研究科の大学院生たち)と自由に雑談を楽しめる場を提供した。会場では、日本・中国・韓国その他の地域の「九尾の狐」について、古典から現代のサブカルチャー作品まで数百点の作品を紹介し、関連の資料展示と映像を行った。

開催概要（英語）：

We provided a resting place under the concept of “academic cafe” where visitors can enjoy talking cheerfully with the professor and graduate students of Meiji University. In the hall, we introduced hundreds of various works through exhibitions and videos: all the products described “Nine-Tailed Fox” , which are made in Japan, China, Korea, and other places, including from Classic works to current subculture products.

開催内容：

「九尾の狐カフェ」は、来場者のために開放する無料休憩所兼学術喫茶である。コンセプトと雰囲気は Apple Store に近い。会場には教員(加藤徹。法学部教授、大学院教養デザイン研究科担当)と学生スタッフ(主に教養デザイン研究科の院生・留学生)が常駐し、来場者に無料で茶菓を提供し、自由に会話をを行った。

来場者との会話のきっかけとして、越境する幻獣・九尾の狐(中国語“九尾狐”、韓

国語“구미호”、英語“nine-tailed fox”)をテーマとした展示を行った。日本と世界

各地の九尾狐について、古典から現代のサブカルチャー作品まで、約 200 点の九尾の狐の資料を、紙のプリント(壁ぎわの机の上に配置)と、壁に映写したパワーポイントの無限ループ上映、及びネット上の動画の上映によって示した。

九尾の狐は、中国最古の地理書『山海経』(前 4 世紀ごろか)にも記載されている伝説の霊獣である。そのイメージは「世代累積型集団創作」によってふくらみ、日本を

含む世界各地に広まった。九尾狐のイメージは善と悪に二分している。東アジアの知識人層は、正統派の漢文古典『白虎通義』に記されている瑞獣としての九尾狐イメージを理解した。庶民層は、中国の妲己説話や日本の玉藻前説話(那須の殺生石の説話)、韓国のクミホ説話のように、人を害する美悪女妖怪のイメージを作り上げ、それを楽しんできた。

九尾狐は「越境する幻獣」の典型例である。世界各地の「伝説の生物」(legendary creature)のうち、人魚や、九尾狐、龍その他の幻獣系キャラクターは、時代や国境、社会文化の階層差を越えて流伝し、変化を遂げて現代に至っている。九尾狐は漢文古典に登場するだけでなく、中国の京劇や日本の歌舞伎など古典芸能にも登場する。現代の漫画「ゲゲゲの鬼太郎」や中国のアニメ「非人哉」、韓流のテレビドラマにも、九尾狐の現代版のキャラクターが登場する。日本・中国・韓国その他の地域の若者は、国境を越えて互いの国の九尾狐系キャラクターを楽しみ、今日も世代累積型集団創作は現在進行形で続いている。

来場者は、会場の展示や映像を見て、自分が気になる九尾狐関連の作品をきっかけに、大学や大学院の研究について、また、教員や学生の研究生活などについて、自由に質問した。

本学の教養デザイン研究科は「人間性とその適正な環境の探求」を目的とする大学院であり、学際性と国際性も豊かである。そうした本学の研究の特長を来場者に伝えることができたのは、われわれにとっても一つの収穫であった。

なお、本企画のプラットフォーム的サイト

<https://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/20191123.html>

は事後も公開中である。

以 上